

# 調査報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

訪問調査日 調査実施の時間	平成 22 年 1 月 13 日 開始 10 時 30分 ~ 終了 15 時 30分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム まりホーム熊野 ( 広島県 )
評価調査員の氏名	氏 名 <u>延平 和子</u>
	氏 名 <u>寺岡 信香</u>
事業所側対応者	職 名 <u>ホーム長</u>
	氏 名 <u>三谷 光蔵</u> ヒアリングを行った職員数 ( 2 )人

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

**記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家 族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

グループホーム [ まりホーム熊野 ] 1, 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3491500231	( 評価機関で記入)
法人名	社会福祉法人まり福祉会	
事業所名	まりホーム熊野	
所在地	広島県福山市熊野町乙443番地-1 (電話) 084-959-1166	
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと	
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201	
訪問調査日	平成 22 年 1 月 13 日	

【情報提供票より】(21年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <b>平成</b> 16 年 7 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 13 人 非常勤 0 人 常勤換算 12 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	<b>無</b>	
保証金の有無 (八百円立上りあり)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	2 名	要介護4	5 名
要介護5	4 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.4 歳	最低 72 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	常石医院 沼隈病院 黒瀬デンタルクリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】 作成日 平成 22 年 2 月 5 日

自然に囲まれた佇まいの中で利用者と職員が地域に根差し、地域の人々と付き合いながらその人らしい暮らしが出来るよう日々取り組まれている。建物は平屋造りで飾り付けも季節感あふれたものとなっている。職員体制も充実し家族との信頼関係もできているため、一人一人に合わせたゆとりある支援の提供を行うことができる。食事についても管理栄養士によるバランスよい献立で利用者と職員が同じものを同じテーブルで楽しく会話しながら楽しい時間となっている。職員育成面については研修も充実しスキルアップに繋がられサービスの質の向上に活かしている。運営者が医療機関のため連携が充実しており、健康面についても安心安全である。利用者にとって人生を全うするにふさわしい事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点については職員間で共有し出来るところから取り組まれた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の意義については理解され、項目ごとに職員の意見を聞きながら作成された。振り返る機会となり、気付きについては今後の支援に活かしていく。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 定期的開催し、家族会会長・地域の方十数名・民生委員・包括支援センター等の参加により、利用状況・年間行事・外部評価の結果について紹介しそれぞれの立場の方々の意見を真摯に受け止め、職員で共有しサービスの向上に繋げている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族会や訪問時等話し合う機会を設け要望や意見を聞くよう努め、そのなかでの不満・苦情があれば、職員間で共有し個々に対応すると共にそれらを運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し地域の行事(文化祭・運動会)、又、公民館での健康体操・行事にも積極的に参加し日々交流を深めている。保育所の園児との触れ合いも大切にされ、日頃より行き来する等地域の一員として暮らせるよう取り組まれている。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念と共に事業所独自の理念として、地域との関係を築きながら暮らしていける事を支援するという理念を職員全員で作成し実践に向け取り組まれている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや勉強会、日々のケアの中で理念に立ち返り意識を高める様にしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し地域の行事（文化祭、運動会）、また、公民館での健康体操や公民館行事にも積極的に参加し日々交流を深めている。保育所の園児とのふれあいも大切にされ日頃より行き来するなど、地域の一員として暮らせるよう取り組まれている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については理解されている。自己評価は項目ごとに職員に振り分けて意見を聞き、それを基に管理者が作成された。再認識する機会となった。また前回の課題については全員で共有し取り組まれていた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的に関催し、家族会会長、地域の方十数名、民生委員、包括支援センタ等の参加により、利用状況や年間行事、外部評価の結果などについて報告し、それぞれの立場の方達の意見を真摯に受け止め、職員で共有しサービスの向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困難な事例や問題点、疑問点などについて、気軽に相談に行き、アドバイスや情報提供をしてもらい、それらをサービスの向上に活かしている。また、社会福祉協議会のかけはしの利用者がおられるため、日頃よりそれぞれの担当者との連携も図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	金銭管理の報告の際や訪問時などに健康状態や日々の暮らし振りについて伝えと共に、電話でも報告している。ホーム便りも月1回送付し事業所の状況報告などお知らせしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や訪問時などに話し合う機会を設け、要望や意見を聞くよう努め、その中での不満、苦情があれば、職員間で共有し個々に対応すると共にそれらを運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は必要最小限に抑えているが、代わる場合は一人ひとりの利用者とは会話する時間を沢山持つようにし、色んな工夫をしながらダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回法人内での勉強会に参加し、看護、介護などについて一人ひとりのレベルに合わせた研修を受けられる体制が出来ている。外部研修については、情報提供をし出来るだけ参加するようにしている。内容については勉強会の中で全職員に周知している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各事業所との勉強会や交流はしている。また近隣の他の事業所と便りなどの交換をしてお互いの情報提供を通じサービスの質の向上に繋げている。		お便り交換だけでなく、勉強会や相互訪問などの機会を持ちお互いの情報交換や交流をしながらその中での意見やアドバイスを日々のケアに活かし、サービスの質の向上に繋げていく取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>情報提供を得て、まず見学してもらい、その場の雰囲気を味わってもらい納得された上で利用開始となっている。開始時は不安を取り除くため職員との会話を多く持ち、家族の協力も得ながら徐々に馴染んでもらえる様努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の先輩として接し、会話の中から生活の技や昔のしきたり等について学ぶ事が多い。またお互いに励まし合いながら信頼関係を築くよう努めている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の会話の中から把握し出来るだけ希望や意向に添うよう努めている。困難な場合は家族の協力を得ながら本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族の意見や要望、また必要な関係者のアドバイス等を基に、ミーティングの中で話し合い、利用者主体の介護計画を作成し、家族の承諾も得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>必要な関係者と話し合い課題を把握しそれを基に3ヶ月～6ヶ月に1回の見直しをしている。状態に変化が起きた場合はカンファレンスを開き医師や訪問看護師の意見やアドバイスを基に現状に即した新たな計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎月1回の理美容院への支援や、医療機関への受診支援、地域の公民館のふれあいサロン等にも同行する等多機能性を活かした支援に取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の訪問受診にも対応している。また、月2回協力医療機関の往診や、歯科の往診もある。夜間対応も充実し、訪問看護とも連携もできている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に説明を行い看取りに関する指針も作成され、家族の理解も得ている。看取りの介護計画も作り、それを基に医師・看護師・職員・家族等で方針を共有し、勉強会もその都度行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライドを大切に言葉かけに心がけ職員間でも注意し合い対応している。書類面についても厳重に取り扱っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に身体状況を配慮しながら希望に添うよう支援している。起床時間にも柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理補助や下膳等それぞれの力量に応じて行っている。食を促す言葉かけや、会話を引き出す工夫をし、楽しみながらの食事風景となっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2～3回となっているが、体調や希望に合わせた支援をしている。拒否の場合は部分浴・足浴・清拭等に対応し清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴の中から一人ひとりの好きな事や、出来る事を抽出し、その人に合った役割事や楽しみ事の支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望を汲み取り、その日の身体状況に配慮しドライブや買い物・散歩等希望に添って出来るだけ屋外に出かけ、気分転換や季節感を味わってもらうよう支援している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は全て開放状態にしている。建物の構造上見守りが十分出来るので、外出傾向のある方にもすぐに対応できる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者・地域住民・職員と共に年2回避難訓練を実施している。AEDも設置しているため、地域住民・職員等で講習会を行う等、地域との協力体制が出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の管理の下、栄養バランスについては確保できている。水分摂取量は1000ccを目標とし把握され、確保出来るよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの作品や季節感を味わう装飾品が飾られている。自然の景色が窓から見られ穏やかな時間を過ごせる場所となっていて、料理する音や、匂いなど、生活感を味わうことができる共有空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物が持ち込まれ、一人ひとりの個性が感じられる配置をされ、過ごしやすい居室となっている。		

# 介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム まりホーム熊野 ( ユニット A )

評価年月日 2010年 1月 13日

記入年月日 2009年 11月 30日

記入者 代表/管理者 氏名 三谷 光蔵

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議などで地域包括も交え、高齢者心配事、不安など相談にのっている。又共にAED講習、避難訓練もとりにくんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価行うことによりグループホームは何を求められているのか、なにを支援するのか共有しながら、又家族、地域にも結果を報告し、意見と協力を得ながらとりにくんでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価項目、結果を報告し意見と理解を得て、地域の人達をまじえた行事などでサービスの向上に協力をえている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて、市の福祉担当職員と情報交換及び相談したりして、サービスの向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域包括担当者に相談など又現在も福祉サービス利用支援事業の利用し、必要な方に支援している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	随時ミーティング、勉強会などで取り上げ、虐待について知識をもち、日々の支援の中で注意を払いながら、防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 . 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時、退居時とも契約書、重要事項説明書もとに、生活の様子など説明し、又質問にもお答えし納得の上、入退居していただくよう努めている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用の話に耳を傾け、個別に世間話のなかで、不満などに注意を払い、職員間、家族にも相談したりして、対応している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>預かり金制度にし、随時家族に確認していただいている。健康状態に暮らしぶりは、面会時、電話連絡、ホームたよりなどでお伝えしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会、運営推進会議及び面会時などで、いろんな話伺い、全職員で共有し、対応している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的な会議、勉強会などで、意見交換しながらサービスの向上に努めている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ユニット同士の連携、職員の柔軟な勤務交代などで、個々の利用者の暮らしを柔軟に対応出来るよう努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は必要最小限にし、勤務状況など工夫しながら利用者への配慮をしている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5 . 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内の勉強会、社外研修、自己目標をたてレベルにあわせて、それぞれスキルアップ図っている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な交流の場を儲け、互いに情報交換や意見交換しながら質の向上に努めている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個々に話し合い、悩みなど聞いたり、又ミーティング時にお互いに話し合ったり、又懇親会なども行い親睦を図っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年度初めに個々に自己目標をたて、管理者も把握、支援しながら取り組み、お互いに実績評価行い向上心を養っている。		
<b>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まず親しく話すことから始め、その中から本人悩み、不安を傾聴し受容に努めている。又コミュニケーションの困難な方は生活、行動のなかで見出していきよう、努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期は特に、些細なことでも不安の無いように、日々様子など電話にて伝えたり、相談したりし、面会時にも色んなことをお聞きする様にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずよく話をお聞きし、要望の内容の確認をし、対応策をお話し、他の支援施設にも相談しながら対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず本人と話す機会を多く持ち、気持ちや不安を理解し、信頼関係を築くようにし、又他の利用者とも話しやすい環境作りなど配慮している。家族にも負担にならない程度の面会お願いしたりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に若いときの話や歌を教えてもらったりして、笑い悲しんだりして、共に人生のあり方など学ばしてもらっている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会の行事を企画し、共に行事を楽しみ、又個々に外出などで一緒に時間を作ってもらい、共に支援を共有するご理解を深めてもらっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の方にとって来訪しやすい環境に思っている。一緒にお茶を飲んでもらったり、近況報告したりして、笑顔での面会になってもらえるよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にお願いし、自宅に帰られ、墓参り、お祭りなどに行かれています。近所の方、又友人などにも積極的に来て頂いてる。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒に体操したり、歌を歌ったり、又話がお互いに盛り上がるような声かけ、話題提供して、お互いの関係を理解し合えるよう支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	施設に面会にいたり、お亡くなりになった場合しばらくして、ご家族のご様子を電話でうかがったり、又ご家族よりお手紙などもいただいている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で本人に、想いや希望をたずねたり、困難な場合、本人の生活のなかに見出すようにしたり、家族とも相談しながらの支援をかんがえている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より生活歴や環境などお聞きしたり、前施設の情報も参考にし、又日々の会話中できいたりして、支援に活かすようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	そのとき、又その日の状態を共有し、その日の暮らしの支援に努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の要望、意見又主治医、グループの訪問看護、PT、管理栄養士の意見参考にカンファレンスを行いプラン作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行い、変化ある場合その都度カンファレンスを行い見直ししている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、フローシート、モニタリングへ記入し見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望者、家族状況より、訪問理容 訪問診療 受診支援 グループ支援施設とも連携をとり支援している		
よわりよ				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向をもとに公民館活動へ参加、小学校、保育所との交流など又地元民生委員との連携、ボランティアにも協力いただいている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	市町村事業への参加や町内会、保育所などの行事に参加している。又家族協力もとりハビリなどにいかれている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域運営推進会議に出席してもらい。福祉情報、権利擁護などわかりやすく地域の人達にと一緒に相談したり、学習を行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の同意を得て、関連機関の病院受診、訪問診療、希望に応じ他の医療機関受診を支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の状況により担当医師や訪問看護と連携し、必要に応じ家族とも相談し、専門医の診察、治療を受けられるよう支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループの訪問看護ステーションと契約し、訪問、相談と、連携しながら日常の健康管理、医療活用支援している。又協力病院の看護師にも相談したりしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中の状態など、又早期に向けての退院、退院後の生活など、入院先の主治医、看護師、又地域連携室と連携に努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より終末期のことも話し合い、又随時そのときの状態を伝えると共に、本人家族にとって納得できる終末期であるよう説明し、理解と共有できよう考えている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、家族の希望を組み入れ、「できること、出来ないこと」、も医師、看護師とも連携し充分説明し、極力穏やかに過ごせるよう支援している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居の際は、施設スタッフ同士で十分な情報交換、話し合いをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりを尊重した言葉かけに注意し、スタッフ間でお互いに注意をはらうようにしている。又記録など個人情報の取り扱いには十分な配慮と保管をしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人に会話の中で、直接聞いたり、想いをくみ取り、納得できるような話しかけをしながら、穏やかな暮らしを支援している、</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの生活をリズムを大事にしている。その中で柔軟な対応を心がけている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>その人なりの身だしなみ家族と相談し心がけている。又理美容は毎月1回訪問してもらっている。お気に入りの店がある場合は家族協力のもと、支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事時に材料名を言ってもらったり、好き嫌いを言ってもらったり、食べやすく工夫したりして楽しく食事をしてもらっている。片付けはそれぞれできる範囲でお願いしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ほしいものがあれば家族に相談しながら、買い物に行ったり、もって来ていただいている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け、トイレ誘導で支援している。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	声かけし、又希望も聞きながら、健康状態など考慮し、入浴を支援している。又足浴などで、清潔快適に思っている。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	その人の状態や思いなど察し、居室やソファ、畳の間にて、声掛けしながら、おもいおもいに過ごしてもらっている。		
( 3 ) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	皆でそれぞれ誕生日を祝ったり、ドライブで外の景色眺め楽しんだり、天気の良い日は散歩などしながら気分転換してもらっている。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	能力に応じて、自分で(小額)もって買い物したり、持っておられるが、ほとんど預かり金として、管理し本人ほしいものある場合は、家族了解のうえ使用している。		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	その人の状態に応じ、ドライブに行ったり、天気の良い日は散歩など屋外に出て、季節感を感じてもらおうよう支援している。		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	利用者の状態により、難しくなって来ているが、家族の協力など得て、花見などに行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な人には、手紙の返事の相談とか電話をかけたりして支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来訪して頂けるよう、挨拶、報告、世間話などいつでもきがるに来ていただけるように、「もてなしの心」を大事にしている。		
( 4 ) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について学習し、やむ得ず拘束必要な場合家族の了解をえている。又、早期解除にむけカンファレンスなどで検討している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は安全のため玄関施錠しているが、日中複数の職員いる場合施錠はしない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に入る場合は、ノックしたり声をかけて部屋に入るようにしている。夜間は一時間ごとに巡回しながら、様子と安全確認している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて、預かったり、使用見守りなどで、取り組んでいる。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	グループ内に転倒防止委員会や教育委員会があり、そこでインシデントの検討、又事故予防を学び。又AED設置しその講習会、防災訓練にも取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に沼隈病院看護師協力のもと、緊急時の対応、A E Dの講習し、訓練に取り組んでいる。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災避難訓練、A E D使用訓練にも近所の方に協力してもらい、共に訓練している。		
72	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者の現在の状態や生活の様子を面会時に報告と相談しながら家族の理解を求めて、日々の生活の支援をしている。又健康状態に不安ある場合、受診の結果など必要に応じ電話などで連絡している。		
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々バイタルチェック行い、又いつもと様子が違う場合、他の職員に相談し、訪問看護、医療関係に報告し対応し、申し送り、記録により共有している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の際の薬確認と処方箋控えにて、薬の確認 用法用量、効能について理解して支援している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操、散歩など体を動かすことに、留意し又水分補給や食事にも注意している。状況により主治医に相談し、対応している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々に応じて、声掛け、カーゼを使っての口腔清拭、入れ歯洗浄の支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立により、食事摂ってもらっている。又水分量にも注意し、随時補給する機会を設けている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ家族同意のもと、接種している。外出後は、うがい、手洗い、拭き掃除も含めて 感染予防講習もとに実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器類 調理用具 などの除菌消毒にて衛生管理に努めている。生もの加熱、生野菜は十分な流水で洗い、安全に心がけている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 土 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関自動ドアでオープンにしており。又玄関前に植木、花壇、ベンチなどおき、頂いた季節の花をいけたりして親しみやすく入りやすく考えている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール中央にオープンキッチンを設け、料理の音やにおいが、身近にあり、又外の景色もブラインドより採光調整しながら、生活感を感じてもらおうよう工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファ、テレビを設置、又畳の間や窓の外にベランダもあり、思い思いにそれぞれの場所で、くつろいでもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用されていた椅子、テレビ、家族の写真など持ってこられ、家族と相談しながら居心地のよく過ごせるよう努めている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室24時間自動換気になっており、冷暖房は温度計又体感音度により こまめに調整するよう行っている。		
( 2 ) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	バリアフリーになっており、又ホール、トイレ、浴室には手すりも設置、利用者にとって、安全と自立した生活を送れるようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各入り口に表札、トイレもわかりやすく表示、一人ひとりの能力に応じ居室内の配置など工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周には、花壇や桜、紅葉の植栽、又小川もあり。散歩がてら安全に楽しんでいる。又テラスもあり天気のよい日は、屋外でお茶も楽しんでいる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

のどかで静な環境活かした生活、その中で地域の人達や、保育所、小学校と交流しながら、穏やかな普通の暮らしが出来るよう、工夫しながらの支援に努めている。又家族関係を大事に考え、お互いに相談しながら、共にその人なりの支援が出来ればと考えている。

# 介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム まりホーム熊野 ( ユニット B )

評価年月日 2010年 1月 13日

記入年月日 2009年 11月 30日

記入者 代表/管理者 氏名 三谷 光蔵

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	地域のなかでその人らしい暮らしの支援、想いをもって、独自の理念として掲げている。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	ミーティング時など課題克服に迷ったとき、いつも管理者、職員ともども理念に立ち返り話し合いと、共有することを大事にすすめている。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	玄関、ホールに理念掲示し、家族会、地域運営推進会議などでも利用者が地域の中での暮らしを大事さ、素晴らしさの理解と協力をお願いしている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近所の方に声をかけてもらったり、回覧版のやりとり。花や野菜などもいただき、又運営推進会議後の茶話会では世間話など楽しいお付き合いをさせてもらっている。	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地元町内会加入し、公民館活動、保育所との交流、敬老会、運動会、文化祭などに参加し親しく声をかけてもらっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議などで地域包括も交え、高齢者心配事、不安など相談にのっている。又共にAED講習、避難訓練もとりにくんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価行うことによりグループホームは何を求められているのか、なにを支援するのか共有しながら、又家族、地域にも結果を報告し、意見と協力を得ながらとりにくんでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価項目、結果を報告し意見と理解をえて、地域の人達をまじえた行事などでサービスの向上に協力をえている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて、市の福祉担当職員と情報交換及び相談したりして、サービスの向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域包括担当者に相談など又現在も福祉サービス利用支援事業の利用し、必要な方に支援している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	随時ミーティング、勉強会などで取り上げ、虐待について知識をもち、日々の支援の中で注意を払いながら、防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 . 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時、退居時とも契約書、重要事項説明書基もとに、生活の様子など説明し、又質問にもお答えし納得の上、入退居していただくよう努めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用の話に耳を傾け、個別に世間話のなかで、不満などに注意を払い、職員間、家族にも相談したりして、対応している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>預かり金制度にし、随時家族に確認していただいている。健康状態に暮らしぶりは、面会時、電話連絡、ホームたよりなどでお伝えしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会、運営推進会議及び面会時などで、いろんな話伺い、全職員で共有し、対応している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的な会議、勉強会などで、意見交換しながらサービスの向上に努めている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ユニット同士の連携、職員の柔軟な勤務交代などで、個々の利用者の暮らしを柔軟に対応出来るよう務めている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は必要最小限にし、勤務状況など工夫しながら利用者への配慮おこなっている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5 . 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内の勉強会、社外研修、自己目標をたてレベルにあわせて、それぞれスキルアップ図っている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な交流の場を確保、互いに情報交換や意見交換しながら質の向上に努めている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個々に話し合い、悩みなどきいたり、又ミーティング時に聞いたり、懇親会なども行っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年度初めに個々に自己目標をたて、管理者も把握、支援しながら取り組み、お互いに実績評価を行い向上心を養っている。		
<b>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の訴えに、しっかり耳をかたむけ、又会話の難しい方には、生活していく中で見出したり、答えやすい方法で何を求めているか受け止めるようにしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	来訪された時などに、要望をおききしたり、日常生活など伝え、家族の気持ちもうけとめ、又遠方の方には電話、手紙などでお伝えしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望しっかりお聞きし、説明し又関連施設などにサポートもとめたりして、対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず本人話す機会を多く持ち、気持ちや不安を理解し、信頼関係を築くようにし、又他の利用者とも話しやすい環境作りなど配慮している。家族にも負担にならない程度の面会お願いしたりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に畑作り、裁縫など、それぞれのやりがいをみつけ、全員に呼びかけ、共に協力し合えるよう努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会などで、日々の生活状況をお伝えし、共に支える事に理解と協力をしてマラって入る。外出、受診なども共に過ごす時間として協力願っている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時など、本人の気持ちなどや近況を報告している。又電話や手紙、写真などお互いにやり取りしたりしてもらうよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の面会を大事に、ゆったり過ごしていただけるよう、又来ていただくよう声をかけさせていただいている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	散歩、レク(折り紙、塗り絵、ドリル、裁縫)など、お互いに気遣い、支えあうよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	施設に面会にいたり、家族にあった場合には近況などお伺いしている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や気持ちを大事にしっかりと受容に努め、生活のなか見出したりし家族とも相談しながら支援している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族より生活歴、環境、性格など情報収集し、又日々の暮らしのなかからも発見に努め、家族にも相談したりして支援に活かしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人何がしたいのか理解し、その日の心身状態も留意しながら過ごして貰うようにと努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いを第一に、家族の要望意見を重視し、聞き取り充分に行い介護計画立案している		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～6ヶ月に見直ししている。又変化あるときは、家族の思いや、医師の意見を参考にし、カンファレンスし見直し介護計画立てている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、フローシート、相談記録の活用し見直し、介護計画に活かしている。又ミーティング、申し送りノートにより情報共有している。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望者、家族状況より、訪問理容 訪問診療 受診支援 グループ支援施設とも連携をとり支援している		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	公民館活動の高齢者の集い、保育所、小学校との交流しながら、又民生委員との連携もお願いし、支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	まり居宅支援事業所、地域包括担当者など又グループ内の各施設と福祉関係者などと相談しながら支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域運営推進会議に出席してもらい。福祉情報、権利擁護などわかりやすく地域の人達にと一緒に相談したり、学習を行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の同意をえて、関連機関の病院受診、訪問診療、希望に応じ他の医療機関受診を支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	担当医と連携取りながら、本人、家族、職員共に相談受診にいつている。家族いけな場合必ず状況説明と結果報告行っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループの訪問看護ステーションと契約し、訪問、相談と、連携しながら日常の健康管理、医療活用支援している。又協力病院の看護師にも相談したりしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関と連携取りながら、随時入院中の様子、早期退院にむけ又退院後の生活ついて、医師や看護師、地域連携室と連絡取り合っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より終末期のことも話し合い、又随時そのときの状態を伝えると共に、本人家族にとって納得できる終末期であるよう説明し、理解と共有できよう考えている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居時より現在の状態、終末期のことへの話し合いをし、必要になったときは、今の状態を説明し、本人、家族の希望を組み入れ医師、訪問看護と連携し、支援する事としている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居の際は、施設スタッフ同士で十分な情報交換、話し合いをして本人に負担にならないよう支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
( 1 ) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重した言葉かけに注意し、スタッフ間でお互いに注意をはらうようにしている。又記録など個人情報の取り扱いには十分な配慮と保管をしている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりにあわせ、縫い物 折り紙 塗り絵及び買い物など声を賭け足り、共にしたりして共に楽しんでいる。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力個々のペースを大事に、柔軟に対応し支援している。	
( 2 ) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人行きつけの美容院にいかれたり、地域の理容院に毎月訪問してもらっている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常の献立のほか、お好み焼き、たこ焼きなど又ご家族より好みのもの待ってこられる。又出きる人には、簡単な調理の手伝いとか、下膳などしてもらっている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お好み焼き、たこ焼きなど一緒におやつ作りしたり、飲み物もコーヒー、お茶、紅茶好みのものをと心がけている。時には家族よりお好きなものの持参があり、楽しみにされている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	排泄パターンを把握し、声かけ、誘導などで個々に合わせた支援している。又水分と運動時にはおなかをマッサージしたりして、排泄支援している。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	利用者の希望、状態にあわせて、入浴支援している。汗をかいた時は、シャワー浴や清拭などで、清潔保持支援している		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	一人ひとり、シクレーションしたり散歩したりその人なりに体を動かしたりして、穏やかな眠りにつけるよう支援している。		
( 3 ) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	台所仕事、花壇の手入れ、畑仕事、掃き掃除などその人なりのやりがい、役割に見守りながら支援している。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	個人の能力に応じ少額、所持されている。他は預かり金として管理し、それぞれ希望にあわせて買い物などに支援している。		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	その人の状態に応じ、ドライブに行ったり、天気の良い日は散歩など屋外で、季節感を感じてもらおうよう支援している。		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	地域での活動よびかけて希望者には参加支援し、又家族と出かける機会も理解のうえ積極的に支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	母の日のプレゼントのお礼状、近況など本人に書いた手紙のやり取りなど、電話も希望により、電話しお話をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問の際は、居室にて共にお茶を飲みながらお話していただいたり、ホールにて話に参加してもらったりしながら、親しい雰囲気でお迎えしている。		
( 4 ) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で勉強会など行い、全職員が身体拘束について理解しており、やむ得ず必要な場合、家族に理解をえて、早期解除を考えながら取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は安全のため玄関、窓は施錠するが、拘束の弊害を理解し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に入る場合は、ノックしたり声をかけて部屋に入るようにしている。夜間は一時間ごとに巡回しながら、様子と安全を確認している。日中は職員連携し、それとなく居場所の確認行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁や洗剤類は決まった手の届かない所に保管し、1人ひとり能力に応じて見守りながら使用してもらっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	グループ内に転倒防止委員会や教育委員会があり、そこでインシデントの検討、又事故予防を学び。又AED設置しその講習会、防災訓練にも取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に沼隈病院看護師協力のもと、緊急時の対応、A E Dの講習し、訓練に取り組んでいる。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災避難訓練、A E D使用訓練にも近所の方に協力して参加してもらい、共に訓練している。又災害時の支援もお願いしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクについては、それぞれ家族に説明と理解をえて、相談しながら対応策を話し合い取り組んでいる。		
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェック、様子の違いに注意し、職員共有し必要ならば訪問看護、主治医に相談している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋の説明書、医師の処方確認し、変更や中止又新しく処方された場合、特に状態の変化に注意している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操、散歩など 体を動かすことの促し、又水分補給や食事にも注意している。状況により主治医に相談し、対応している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨き、うがいの声をかけての促し、又ガーゼによる口腔清拭に支援。義歯の方は毎晩消毒管理している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立のもと、栄養バランス摂っている。水分補給も夜間ボトルにて対応、又状態により食事量、水分摂取量を確認している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザ家族同意のもと、接種している。外出後は、うがい、手洗い、拭き掃除も含めて 感染予防講習もとに共有し、実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	漂白剤にて除菌、消毒、吹き掃除又生ものは加熱、生野菜は消毒ののち流水にて洗い、新鮮で安全性に留意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関周りの工 土 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	自動ドアでオープンにしており、屋外危険なところはフェンスで安全に、又花壇、庭木など植栽して安心して出入りできるようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには手つくりの作品を飾ったり、窓の外を見ると季節感や小川の水の音も聞こえてくる。中ほどにキッチン配置し調理の音、においなどで生活感をあじわせるよう工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づ くり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で1人でテレビをみたり、横になったり、又ホールのソファに腰掛け一緒にテレビや話をして、それぞれに過ごしてもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に自分の使い慣れたものを持参され、思うように配置され自分の過ごしやすいうようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室24時間自動換気になっており、冷暖房は温度計また体感温度によりこまめに調整するよう行っている。		
( 2 ) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、又ホール、トイレ、浴室には手すりも設置、利用者にとって、安全と自立した生活を送れるようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	1人ひとりに応じてトイレの場所、声のかけ方などその人なりの暮らし方に柔軟に対応支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇に植栽、危険なところにはフェンス、又ホームそばには小川が流れ、水音を聞きながら四季を感じ、安全に外周を散歩しながら楽しんでいる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

のどかで静な環境のもと、地域の人達や、保育所、小学校と交流し、穏やかな普通の暮らしが出来るよう、工夫しながらの支援に努めている。又家族関係を大事に考え、お互いに相談しながら、共にその人なりの支援が出来ればと考えている。